

輝け! Stage-debut!
みんな DE スター

『みんなDEスター』は、みの〜れ住民劇団「演劇ファミリーMyu」、みの〜れ住民楽団「Jolly forest Jazz orchestra」、「みのり太鼓」の3団体がさくらフェスティバルの森のホールを【住民参加】の舞台にすべく、それぞれが「演劇」、「ジャズ」、「和太鼓」のワークショップを行いました。そのワークショップの「成果発表＝ステージデビュー」を是非、みなさん見に来てください!

- ★1 みの〜れ住民劇団 演劇ファミリーMyu 和太鼓「ようそろ」
- ★2 創作和太鼓集団 みのり太鼓&和太鼓ワークショップ成果発表
- ★3 みの〜れ住民楽団「楽団四季」 Jolly forest Jazz orchestra & JAZZ BAND WS 成果発表

「ようそろ」は船を直進させる操舵号令「宜しく候(よろしくそうろう)」が変化した航海用語。この物語では、相づちや挨拶にしていた言葉が魔法の呪文に変わっていく様を、少女の心の変化をとおして表現しています。Myuが大切にしている家族のあたたかさが、皆さんの思い出になりますように。< 演劇ファミリーMyu コイケシンジ >

1月と3月に「太鼓教室」を開催し、教室に参加してくれた方々と一緒に、同じステージに立ちます。初めて太鼓を打つ人たちがほとんどですが、太鼓で表現する楽しさを舞台で披露します。また、みのり太鼓の演奏も行い、内容の濃いステージをお届けしたいと思います! < みのり太鼓 井坂 いく子 >

ジャズフォレ初、一般参加ありの「ジャズバンドワークショップ」を実施しました。初めはみんなバラバラでしたが、講師の三木先生のご指導と、参加者の熱意で、だんだんひとつになってきています。音楽の楽しさが伝わるようなステージを目指してがんばります! < Jolly forest Jazz orchestra 井手上 剛志 >

12:00開場▶12:30開演▶14:30終演
入場無料【全席自由】(優先入場券有り)

- 優先入場券は開演10分前には無効になります。
- 駐車場が混雑する可能性がありますのでご注意ください。
- 客席内での飲食・喫煙・携帯電話・録画は固くお断りいたします。
- 優先入場券のお申し込みは小美玉市四季文化館(みの〜れ)まで
- 四季文化館(みの〜れ) TEL0299-48-4466

REPORT 2014.2.28 Minole
大好評の講座が遂に最終回!!
facebookであなたを伝えよう



今年度新企画「facebookであなたを伝えよう!」の全5回が終了しました。これはフェイスブックを活用し、情報ツールとして学ぼう!という主旨で開催されました。講習では、講師を迎え、フェイスブックの基礎的な活用方法や注意点、「PR達人」たちの使い方を学んできました。参加者からは「事例を交えての講習はわかりやすかった」との声があり、また、実行委員の井坂ひろ美さんは「フェイスブックに人と人のつながりの大切さを教えてもらいました」と話していました。< みのんば編集局 酒井 和美 >

REPORT 2014.3.9 Cosmos
おみたま39プロジェクト
まんまるマルシェ ~おいしい出逢い・おいしい繋がり~



市外の宣伝にも力を入れ、評判をよんだ39プロジェクト。食がテーマの映画「天のしずく」を鑑賞した後、おいしい食のブースでお腹を満たし、午後からは朗読パフォーマンスの公演で内容盛りだくさん。プロジェクトメンバーである遠藤康子さんにやりとげた感想を聞いてみました。「同じ方向性、同じ志を持った人達がつながると、そのつながりはとても強い。人と人がつながっていく喜びを肌で感じる事ができ、とても幸せでした。」そばには娘さんがいて、一緒に関わり支えてくれたそうです。食文化がテーマだけに、お母さんたちが楽しめる優しいイベントでした。< みのんば編集局 野手 利江 >

発見! 小美玉にこんな人が!! 『ものづくり』の大切さを未来に伝えたい。

市内在住、技能グランプリ全国競技大会第1位など数々の功績を残しているスゴ腕の1級技能士、安達克敏さん。父と祖父の建具店を継ぎ、3代目となります。第1回 市民の日 実行委員を務めたこともあり、市内行政区パズルを考案、作成。地域のためにも、その腕を惜しみなく活かしてくれています。今回はものづくりの大切さと喜びを伝えようと、みの〜れで開催された『ものづくりフェア』に参加されました。「学校の技術家庭の中で、ものをつくる授業が減っているのは心配。子どもたちがものづくりの手間ひまを知る機会が少なくなるということだから。日本は昔から資源のない中、技術力で成長してきた。そこは大切にしたい。ものづくりをすることで、ものを大切にする心も育つ」と語る安達さん。ものづくりへの熱い思いから話は尽きません。まなざしは優しく、ものづくりと子どもたちの未来を見つめているかのようでした! < みのんば編集局 貝塚 勇 >



【建具職人】
安達 克敏 さん

若者たちの熱意が演劇芸術の『これから』を切り拓く!!

劇団ありんこ × 美野里中学校 演劇部



3月21日にみの〜れで行われた演劇発表会では、美野里中学校演劇部発表の前に劇団ありんこの公演が行われました。演目は小池さんが作・演出の「アマレット」。舞台はとあるBAR。お酒の味を知らない、BARも行ったことがない高校生が織り成すさまざまな人間模様はとても楽しかったです。小池さんは、劇団の公演をたくさんの人に観てもらいたいのはもちろんのこと、特に団員の両親に観てほしいという。なぜなら「演劇を通して成長した姿、楽しんでいる姿を感じ取ってほしい」から。劇団ありんこの「これから」については、「もちろんこれからも続けていきます。大人の方も借りながら、未経験者や初心者関係なく、誰でも気軽に入ってこられるような劇団をつくりたい!」と力強く語る小池さんの瞳は、キラキラと輝いていました。



劇団ありんこ & 美野里中学校演劇部 みの〜れを拠点に猛稽古中!!

高校生演劇サークル 劇団ありんこ

劇団ありんこは、美野里中学校演劇部OBの小池淳皓さん(高一)により結成された高校生演劇サークル。「演劇って楽しい!」ということも、演劇初心者にも知ってほしいと結成。みの〜れ住民劇団「演劇ファミリーMyu」のメンバーでもある小池さんは、Myuで学んだ演劇経験を活かし、演劇の楽しい部分を伝えられるような稽古を行っていました。「遊びで終わらせない。やるんだったら本気でやりたい。つらいことも含めて、演劇の“本当の楽しさ”を味わっていき

たい!」と団員たち自ら演劇と正面から向き合おうとしてくれたといいます。稽古の様子を見ている中、お互いに意見を出し合い支えあって、熱心に役作りをする姿が眩しく見えました。互いの本音をぶつけ合えば、それより更に良いアイデアが生まれる。それを繰り返すことで、団員自身が自分で深く考えようようになっていったそうです。そんな団員たちに、小池さん自身が一番支えられていると語ってくれました。< みのんば編集局 藤田 佐知子 >



美野里中学校 演劇部

3月21日にみの〜れで行われた美野里中学校演劇部春公演「夢屋」の稽古にお邪魔して、演劇部の「これから」を、部長の福田未来さんと副部長の元家瞳さんを中心に取材しました! 演劇部では、台本集の中から演目を選び、役はオーディションで決めているそう。オーディションで選ばれたからには、その役をもらえたことに責任を持ち演じるといいます。演じる上で意識していることは、作品それぞれの『テーマ』。観客に何を伝えたいか、どう演じたいかを部員同士で話し合い、意識を共有していくそうです。また、

立ち位置などを確認しながら、棒立ちにならないように気を付けているそうです。みの〜れの舞台技術管理マネージャーである阿部喜一さんからは、技術的な指導と支援をもらって、部員たちはとても心強く感じているでしょう。「何よりも楽しいメンバーばかり! 4月からは新入生も入ってきます。発声練習や基本的な稽古はもちろん大切ですが、それ以前に、演劇は楽しいんだよ!」と伝えたいです」と元気いっぱいの笑顔で話してくれました。< みのんば編集局 藤田 佐知子 >